

# 緊急地震速報が “気象警報” になりました

**備えて安心 20**  
～南海地震などあらゆる  
災害への備え～

## 地震動予報および地震動警報の内容

区分	名称	内容など
地震動予報	緊急地震速報(予報)	最大震度3以上またはマグニチュード3.5以上などと推定されたときに発表するもの
地震動警報	緊急地震速報(警報) または緊急地震速報	最大震度5弱以上の揺れが推定されたときに、強い揺れが予想される地域に対し地震動により重大な災害が起るおそれのあることを警告して発表するもの

※気象庁における発表では今後も「緊急地震速報」の名称が使用されます。

気象業務法の一部が改正され、  
昨年の12月1日より「地震動予報および地震動警報」が新しく発表されることになりました。  
この情報は地震災害における減災対策に非常に重要な究極の情報です。まさかのときの備えとして、情報の内容を理解しましょう。

**緊急地震速報をキャッチしたら、まずは身を守る「行動」を！**

緊急地震速報は、地震がいつ起こるのかを知らせる「予知情報」ではなく、「地震の初期微動を検知して、大きな揺れがくることを事前に知らせる情報」であるため、いつ発表されるか分からない情報です。

そして、限られた情報を活用し、地震の規模などを計算したうえで伝える仕組みであるため「強い揺れが来る前に必ず間に合うわけではない」ことや「揺れの大きさなど情報内容の精度にも限界がある」ことを十分に理解しておく必要があります。

また、幸いにして情報を得られたとしても、大きな揺れまで数秒から数十秒しか猶予がないとされますので、素早い「行動」を補うための「備え」が必要だということを認識しておくことが重要です。

家にいるとき、外出しているとき、どのような行動をとるべきか、また、必要なものは何かなどを日ごろから考えておき、準備をしておくことが重要な情報を活用するために不可欠となります。

## 気象庁が示す具体的な行動例

### 【家庭にいるとき】

- 頭を保護し、大きな家具からは離れ、丈夫な机の下などに隠れる。
- あわてて外へ飛び出さない。
- その場で火を消せる場合は火の始末、火元から離れている場合は無理して消火しない。
- 扉を開けて避難路を確保する。

※ただし、住宅に耐震性がない場合など、家屋の状況により安全確保の行動は異なります。

### 【街にいるとき】

- ブロック塀の倒壊や自動販売機の転倒に注意し、これらのそばから離れる。
- ビルからの壁、看板、割れたガラスの落下に備え、ビルのそばから離れる。
- 丈夫なビルのそばであればビルの中に避難する。



●このページの記事に関するお問い合わせは、下記までお願いします。

【本庁】総務課消防防災係 ☎43-2112(直通) 【佐賀総合支所】総務課総務係 ☎55-3113(直通)